授業科目	施設実習Ⅰ					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期
担当教員	笠　修彰、篠木　賢一、池田　佐輪子						
授業概要	福祉施設での実習を通して次の事項を学習する機会を設定する。実務家教員として、障害児（者）支援業務に携わった社会福祉士・精神保健福祉士としての経験を活かし、学生の事前事後指導や訪問指導、配属実習先の施設職員との連携を行う。 なお、実習先では実務家による指導を受ける。 1. 施設の役割、職員の役割について説明を受ける 2. 施設の１日の流れや子どもの活動の様子を把握する 3. 子どもとのかかわりを通して、子どもへの理解を深める 4. 子どもと職員のかかわりを観察し、生活援助のありがたについて学ぶ 5. 職員間の役割分担を理解し、チームで支援することを学ぶ 6. 自立支援計画、養護計画を実施する						
授業形態	観察・参加実習 （１０日間）			授業方法	児童福祉施設等での実習		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	福祉施設の役割と、そこで生活している子ども、専門職員の役割、他機関との連携、地域との連携などについて理解し報告できる。 1. 子どもとともに生活しながら、子どもを観察し、そのニーズを見出すことができる。 2. 養護・療育計画に参加し、適切な処遇のあり方について考えることができる。 3. 養護・療育計画を実施することができる。 4. 保育士としての倫理観、子どもの最善の利益を保障するための具体的な対策など、保育士の役割について説明することができる。 5. 安全及び疾病予防への配慮について考え、実践できる。 6. 職員それぞれの役割とチームワークについて理解したうえで、自分の役割を遂行できる。 7. 地域の中での福祉施設の役割について説明できる。
理想的レベル	標準レベルに加え、以下の点に到達できる。 1. 子どもと生活をともにする中で、子どものニーズを感じ取り、適切な処遇を選択し、実施することができる。 2. 保育士としての倫理を守り、子どもの人権を尊重した対応を実践することができる。 3. 職員の協働の様子を観察し、複数の可能な行動の中から実習生として適切な行動を選択できる。 4. 職員の指導のもと、養護・療育の計画を立て、実施することができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト		
レポート		
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物	50%	実習日誌や実習施設からの評価表等

その他	50%	授業への積極的な参加姿勢等

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	CH31606J

学習課題（予習・復習）	１回の学習目安（時間）
１日の実習を振り返り、実習日誌に記述する。	1

授業計画	
第１回	１．事前オリエンテーション A）実習施設の調整および指定をおこなう B）実習に必要な書類作成 C）実習施設の概要を理解するための事前学習 D）個別の実習の課題の設定 E）実習施設が実施する事前オリエンテーションを受ける ２．施設での実習 A）施設の１日の流れや子どもの活動の様子を把握する B）子どもとのかかわりを通して、子どもへの理解を深める C）子どもと職員のかかわりを観察し、生活援助の在り方について学ぶ D）職員間の役割分担を理解し、チームで支援することを学ぶ E）自立支援計画、養護計画を実施する ３．施設実習の反省・振り返りをおこない、保育士の役割について理解を深める
テキスト	守巧　小櫃智子　二宮祐子　佐藤恵　　実習施設パーフェクトガイド　わかば社 北九州児童養護施設実習連絡会　「北九州児童養護施設実習の手引き」（保育実習指導の中で配布）
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	駒井美智子　　施設実習ガイド　萌文書林 長島和代　　保育のマナーと言葉　わかば社
課題に対するフィードバックの方法	・実習日誌や実習施設からの評価表等を用いて、実習の事後面談を行う。
学生へのメッセージ・コメント	施設実習Ⅰの実施に当たっては、「保育実習指導 1」を受講し、「保育実習指導 2」あるいは「保育実習指導 3」を受講しており、実習の実施要件を満たしてることが必要です。 施設実習は、生活そのものを子どもたちと共にする実習です。日常生活の自分の姿は子どもたちの健やかな発達にいい影響を与えることができるかどうか振り返ってみてください。